

市民協働事業提案制度の募集内容を充実させるべきと思うが
現在、市がどのような事業を行って



高齢者の社会参加促進、どう進める
問 高齢者が増えているのに、老人会加入者数が 4 年間で約 2 千人減少し、シルバー人材センターの登録者数は 154 名も減少しているが、今後、どのように進めていくか。

答 対象者が幅広い年代層であることから、選択肢のある施策を推進し、相談や広報にも努めていく。

問 高齢者福祉サービスは、毎年見直され、現在は 18 事業が行われており、対象年齢が敬老会は 75 歳以上、老人会は 60 歳以上、緊急通報装置設置事業はおおむね 65 歳以上とバラツキがあるのはなぜか。

答 サービスを必要とする方が受けやすいよう、市単独事業には裁量を加えているが、今まで以上に利用しやすくなるように検討していく。

いるのかなどの情報提供をするべきと思うが見解は。

答 事務事業評価表等を活用するなど、積極的に情報発信を行っていく。

問 募集により採択され実施された

事業が、どのように行われ、どんな成果があったのかを公表するためには公開報告会などを実施するべきでは。

答 より多くの市民に知っていたためにくために報告会を行っていく。

A 国県の制度や市の基準に裁量を加えて定めている

Q 高齢者福祉サービスの対象年齢はどう決めているのか

馬場 健一

Q

A

平成 28 年度から活用したい

Q 健康長寿埼玉プロジェクトに参加すべきではないか

馬場 茂

市政のここが聞きたい

議会のホームページから、本会議の様子がご覧いただけます。



質問項目一覧

(通告順)

- 加藤 利江
 - ①福祉施策について
 - ②保育士人材確保について
 - ③教育現場について
 - ④消防署、分署の位置について
 - ⑤道の駅の合併について
 - ⑥多面的機能支払交付金について
 - ⑦花園アウトレットについて
- 柴崎 重雄
 - ①空き家対策について
 - ②地域消費・生活支援について
 - ③深谷市誕生 10 周年について
- 富田 勝
 - ①花園 IC 抱点整備プロジェクトについて
 - ②行財政改革のデメリットについて
- 五間 くみ子
 - ①がん対策について
- 清水 健一
 - ①福祉行政について
 - ②市民協働事業について
- 馬場 茂
 - ①健康、長寿事業について
 - ②砂ぼこり対策について
- 鈴木 三男
 - ①国民健康保険税について
- 佐久間 奈々
 - ①老人福祉センターについて
 - ②障害者福祉事業について
- 三田部 恒明
 - ①生活保護法改正
 - ②生活困窮者自立支援法
- 村川 徳浩
 - ①花園 IC 抱点整備プロジェクトについて
 - ②市立幼稚園について
- 中矢 寿子
 - ①自転車運転者に対する取り組みについて
 - ②マイナンバー制度について
 - ③認知症への取り組みについて

- △ 敬老祝金は残すべきと思う。
△ 高齢化率の上昇に伴う予算増に対応するための変更で、長寿を祝う気持ちを伝えることが大切と考える。
- △ 舞台に上がる階段に手すりを付けてはどうか。
△ 小ホールの手すりについては、安全性等に留意し、付ける方向で検討する。
- △ 文化会館の手すりについて
△ 道の駅の合併について
△ 教育現場について
△ 入学時に和式トイレの練習をするようにと学校から指示があるが。
△ 和式から洋式にすべきと思うが。
△ 給食費の値上げはなぜ今なの。
△ 食材の高騰や消費税の引き上げ等により、給食費の改定を行った。
- △ 合併の必要性を説明してほしい。
△ 指定管理会社の合併は、経営基盤を強化させるためと聞いています。
△ 花園アウトレットについて
△ 道の駅の合併について
△ 住民投票を行うべきと思うが。
△ そのような考えはない。



文化会館小ホール

Q 今年度より廃止された敬老祝金は残すべきと思うか

A

事業の見直しで敬老祝金から慶祝記念品となつた

△ 敬老祝金記念品の掲載は、通告順です。△ 消防署、分署の位置について
△ 指定管理会社の合併は、経営基盤を強化させるためと聞いています。
△ 「深谷市公共施設適正配置基本方針」に基づき検討している。

加藤 利江



市民協働事業提案制度の募集内容を充実させるべきと思うが
現在、市がどのような事業を行って

△ 自由なテーマの募集に関して、

△ 一般質問の記事は質問者本人が執筆したものを作成し、掲載しております。△ 一般質問記載は、通告順です。



△ 一般質問の記事は質問者本人が執筆したものを作成し、掲載しております。△ 一般質問記載は、通告順です。

△ 緑肥については 2 月から 5 月にかけて農作物の作付けの関係から面積の拡大につながらず、今年度よりロビンの植栽によるモデル地区の設

△ 平成 19 年から砂ぼこり対策に取り組んでいるが効果が見えない。今後どのような対策を考えているのか。

△ 緑肥については 2 月から 5 月にかけて農作物の作付けの関係から面積の拡大につながらず、今年度よりロビンの植栽によるモデル地区の設